

目 次

刊行にあたって
前 言

I. 画像資料論の展開

画像資料と保存科学	青木 繁夫	3
メタデータ配信による画像資料活用の可能性	黒崎 浩行	11
沖縄県における画像資料の保存と活用の現況	池田 榮史	19
柴田常恵資料の整理・保存作業	田中 秀典	23

II. 画像資料と考古学

考古学的情報としての画像	小林 達雄	29
学術フロンティア作業報告—大場磐雄資料編	荒井 裕介	41

III. 画像資料と宗教学・民俗学

民俗宗教における柱の信仰と儀礼	宮家 準	49
画像資料と民俗誌	倉石 忠彦	65
記録されたイザイホ—画像から見た祭祀状況と聖域の変容—	齋藤 ミチ子	79
画像資料と民俗学	小川 直之	95

IV. 研究会 画像資料と近代史—歴史学研究における記録資料の役割—

文化財担当者柴田常恵の記録—大場磐雄との関連性を軸に—	山内 利秋	129
楽石雑筆にみる君津地方の遺跡調査	光江 章	137
	酒巻 忠史	
登呂遺跡に見る記録写真と大場磐雄	中野 宥	155
保存科学における記録	大久保 治	173
登呂遺跡関連大場磐雄資料—ガラス乾板と大場資料—	加藤 里美	179
近代初期における学術雑誌の写真利用—『考古学雑誌』を事例として—	平澤加奈子	183
ディスカッション		189